

高井病院

ガンマナイフ室通信 (vol.37 Aug. 2017)

文責 長友 康

残暑にしては厳しいです。夏休みの宿題ではありませんが・・・

関東は梅雨のような天気だそうですが、こちらはまだまだ暑く夏日が普通になっているこの頃です。子のガンマナイフ通信も夏休みの宿題よろしく月末に駆け込みで書いています。色々と忙しく体調も狂いやすい日々が続きますがですが、皆様いかがお過ごしですか。

当院のガンマナイフ状況

夏の暑さにもめげず。ガンマナイフ治療室内だけは空調が機械のために完璧なため快適で相変わらず、ガンマナイフは順調に稼働しています。

8月-10月の予定

8月はお盆休みもなく、元気に働かせていただきましたが、9月は11日(月) -16日(土)まで所用で不在となります。不在の間の至急の連絡が必要な場合、後記地域連携室にお電話いただくか、メールいただければ連絡が取れます。不在期間メール宛てお送りいただいた際には、地域連携室にご一報いただければ幸甚です。また、10月23日(月) -25日(水)日は定期点検のためガンマナイフは休止となります。この期間は私は普通に勤務しておりますので、連絡は普通に取れます。よろしく願いいたします。



ガンマナイフ後脳浮腫とステロイド

ご存知の通り、脳はなにかダメージを受ければすぐにむくんで腫れる性質のある非常にわがまま臓器です。出血、梗塞、挫傷なんでも腫れますが放射線を浴びても腫れるガンマナイフでは最も多い副作用です。

放射線量、腫瘍体積が多いほど浮腫は強くなりますが、DMや基底核など脳の脆弱性が高い部位では浮腫は強くなります。血管系を巻き込めば当然血管性の浮腫が混在しますが、それ以外は細胞性浮腫が中心になります。血管性に対しては、入院はともかく外来で処方できるのはイソバイドぐらい。ゼリーになってもあのまずさで気持ち悪くなると訴える患者さんも多く、効果も今一つですので、どうしてもステロイドが中心の治療となります。

ガンマナイフの浮腫は独特な経過をとるため、一度、自分の経験と対処の仕

方をお話しするのは決して無駄ではないと思立ちこの記事を書いています。

浮腫の経過：超急性期浮腫は照射後数時間 24 時間ぐらいで収束します。これは入院中ですので私が対処しており、ほぼ問題ありません。

急性期：数日から数週間継続します。ピークは症例により異なりますが、1-2 週間はピークが続くことが多いようです。

慢性期：6 か月から 1 年前後をピークに数カ月継続。MRI の T2 変化のみで症状を伴わないことも多いです。

ステロイド投与方法：以上から問題にあることが多いのは急性期ですが、予防的にステロイド投与をお願いすることがよくあります。年齢、病巣、合併症などで量、期間は千差万別ですが、ご参考までに私の基本的な使用法例示いたします。

強い症候性浮腫が予想される場合：H2 blocker か PIPP とともにプレドニン換算で 60g/day ガンマナイフ退院時から開始（入院中にすでに投与開始されています）。

14 日間継続後、診察し神経症状、副作用などなければ 55mg/day へ 5mg/day 減量。これを 2 週ごとに反復。順調に行って 24 週後ごろに終了となります。もちろん、開始時の投与量、合併症の有無や年齢、体重等により様々に変わりますが、大事なのは最短でも数日ごとに少しずつ減量。減量前に必ず患者さんの状態をチェックして盲目的に減量しないことだと考えております。

ご紹介、同意人についてなど

ご不明な点は、下記の私に直接か地域連携室にお問い合わせいただければ、事前の連絡さえいただければいかようにも対応させていただきます。また、紹介をお迷いの症例や相談などがありましたら、電話だけではなく、メールでもいつでもお気軽にご連絡ください。キー画像があれば、さらにご紹介の事前にもいろいろご相談できると思います。ガンマナイフは放射線治療ではなく定位放射線手術であり、手術に準じるため同意人の署名が必須です。さらに、当日その方の支援が必要となるため、初診時には家族、または**同意書に署名ができ当日の協力をお願いできる方の同伴**が必須です。脳開頭手術の説明と同等とお考えください。よろしく願いいたします。

高井病院 脳神経外科 ガンマナイフ担当 長友 康
Tel 0743-65-3263 (地域連携室)
e-mail: nagatomo@takai-hp.com
9 月 11-16 日不在時 e-mail: gknagatomo@gmail.com